



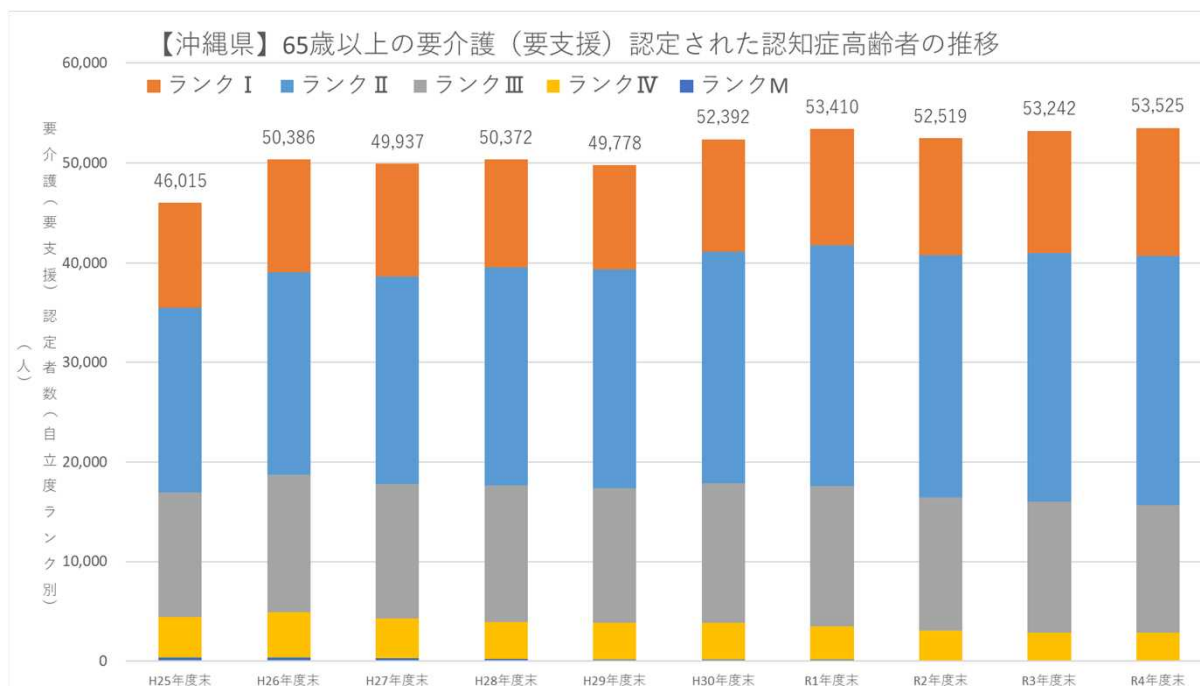
沖縄県認知症希望大使について

沖縄県の紹介

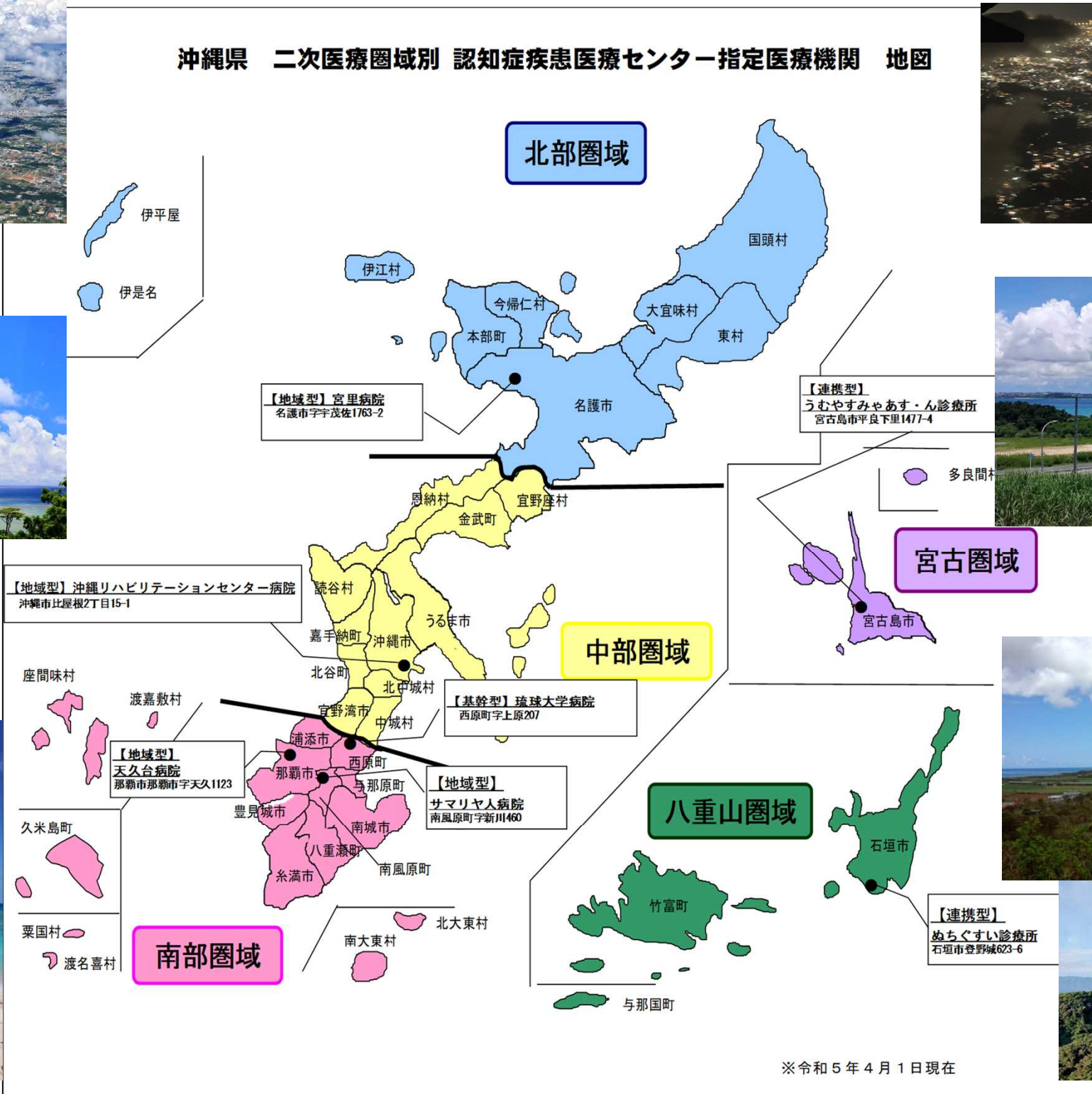
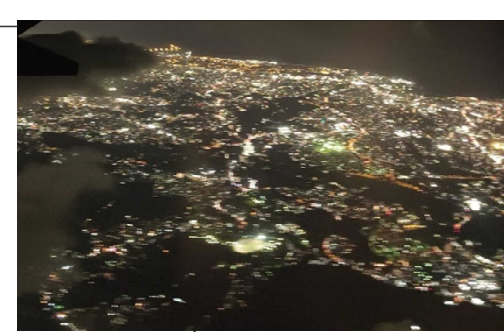
沖縄県は日本で唯一、亜熱帯地域に属し、一年を通して温暖な気候に恵まれています。

県内41市町村、人口は約146万人で、そのうち沖縄本島中南部圏域に約8割以上の人口が集中しています。

令和4年度末時点で65歳以上の高齢者数344,101人のうち、「認知症高齢者の日常生活自立度」において、ランクⅠ以上と判定された人は53,525人（約15.6%）となっています。



沖縄県 二次医療圏域別 認知症疾患医療センター指定医療機関 地図



沖縄県認知症希望大使委嘱までの流れ

背景

今年6月に公布された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が掲げる「認知症の人が自らの経験等を共有することができる機会の確保、認知症の人の社会参加の機会の確保」に必要な施策として「**沖縄県認知症希望大使**」を設置することとしました。

6月～
7月

設置要綱作成

- 希望大使設置について、部長・知事から了承を得る。
- 設置要綱で大使の要件や任期、活動内容等を定める。

7月～
8月

希望大使募集

- 認知症の方と関わりが深い関係機関へ候補者推薦依頼。
- 推薦にあがった候補者やその家族等へ面談を実施。

9月

委嘱式開催

- 面談内容等をもとに委嘱者を決定。
- 沖縄県認知症県民フォーラム内で委嘱式を開催。

令和5年9月14日に県内で初めて委嘱しました！

沖縄県認知症希望大使の活動

沖縄県認知症県民フォーラム

沖縄県では、9月の世界アルツハイマー月間にあわせて令和5年9月14日に「沖縄県認知症県民フォーラム」を開催しました。フォーラムでは、「沖縄県認知症希望大使」を3名の方に初めて委嘱し、玉城知事から委嘱状を交付しました。このフォーラムの中で、これまでの経験を踏まえたメッセージを県民の皆さんに発信したり、認知症をテーマとしたトークセッションに参加するなど、希望大使としての活動の第一歩として重要な役割を果たしました。



↑知事から3名の大使の方へ委嘱状が交付されたときの様子。左から新里勝則さん、喜屋武直子さん、大城勝史さん。

↑委嘱状交付後知事との記念撮影。



←メッセージを発信する新里勝則さん。大使のみなさんからは、これまでの経験を踏まえて、つらかったこともあったが、今は自分らしく生活できていること、偏見や誤解をなくしたいことなどをお話いただきました。これらの内容は地元の新聞記事やニュース番組の特集でも取り上げられました。



←トークセッションの様子。希望大使の他、京都府認知症応援大使の下坂厚さんをゲストに迎え、県内の認知症関係者の方々も交えて認知症に関する様々なテーマに関して議論しました。MCから大使へ意見を求められた際には、みなさんそれぞれ自分の考えをしっかりと発言されました。

希望大使の紹介

おおしろ かつし
大城 勝史さん 委嘱時
48歳



プロフィール

40歳のとき、認知症の診断を受ける。県内では初めて若年性認知症を公表し、講演活動を行っていた。現在も仕事を続けている。

活動したいこと・伝えたいこと

- ・認知症になると、何もかもできなくなるわけではありません。各々、できることがたくさんあります。周囲の人の力を借りてできることもたくさんあります。私が働き続けているのもその1つです。
- ・私の経験、見える世界、想いを話す活動がしたいです。

しんざと かつのり
新里 勝則さん 委嘱時
64歳



プロフィール

56歳のとき、認知症の診断を受ける。認知症カフェへの参加や世界アルツハイマーデーでの基調講演など活動を行っている。

活動したいこと・伝えたいこと

- ・認知症という病名ではなく、一人の人として接してほしい。
- ・認知症になったからといって、悪いことをしているわけではないから、普通に本人の好きなように暮らさせてほしい。
- ・認知症になってもできることはたくさんあります。認知症になったら何もできないという偏見をなくしたい。
- ・たくさんの認知症の人と交流したい。

きやん なおこ
喜屋武 直子さん 委嘱時
62歳



プロフィール

56歳のとき、認知症の診断を受ける。認知症カフェに定期的に参加し、講演会や勉強会などにも参加している。

活動したいこと・伝えたいこと

- ・認知症のことを正しく理解してほしい。
- ・認知症でもできることはたくさんある。
- ・たくさんの認知症の人と交流したい。

希望大使の活動紹介 (R5年度)



↑県の広報番組「うまんちゅひろば」へ出演しました。

正しい認知症の理解と対応を!

認知症の人は認知機能が低下していますが、周囲の理解と気遣いがあれば地域で暮らし続けることができます。また、家族や介護者の適切な対応によって、認知症の進行を緩やかにすることや症状が軽くなることもあります。

【認知症の人本人とご家族の方などの話を聞いてみました】

今、認知症の人と家族の会沖縄県支部が主催する認知症カフェ(ひまわりカフェ)に参加している認知症の人本人やその家族の方などのお話をご紹介します。

認知症の人本人 新里勝則さん
 認知症とわかったときはショックだった。最初は認知症と認めたくなかったの、認知症カフェに参加するも嫌だった。しかし、認知症でも頑張っている人の話を聞いているうちに自分でもできるのではと思うようになった。認知症になるのも何とできないと思われているが、自分の身の回りのことは普通にできるし、ある程度のことではある。認知症の方はぜひこういった認知症カフェに参加してもらいたい。

認知症の人の家族 新里初美さん
 夫が認知症になるとは想像もしていなかった。最初はどうすればいいのかから不安だったが、認知症の家族がいる先輩方の経験談や助言を聞いて、徐々に受け入れることができるようになった。今は気も違わず言いたいことを言いあえて、行んかすこともあるが、笑いながら生活できていて幸せ。今後は、自分たちが認知症の人本人や家族の方に、これまで教えてもらったことや経験を還元できるように、みんなが集まれる場所をつくって返したい。

ひまわりカフェの主催者
 認知症の人と家族の会 沖縄県支部 代表 鈴木伸章さん
 ひまわりカフェは、ひとりで家にこもらず、笑顔でみんなと語り合いながら、食べたり、遊んだり楽しくなるような会を開催しています。また、認知症の知識を持った人がいろいろな相談にもってくれますので、1人で悩むことなくぜひ参加してもらいたいです。

認知症カフェ
 認知症カフェとは、認知症の人、家族介護者や友人、地域住民、専門職など年齢や所属、地域に拘束なく身近に入りやすい場所で開催される集いの場です。参加者はお互いにコミュニケーションや情報交換を気軽に行うことができます。



↑沖縄県国民健康保険団体連合会のCMに出演しました。

新里勝則さんは、大使として委嘱される前にも、新里さんが通っている認知症カフェでの様子を番組や記事で紹介したり、CMに出演されるなど認知症の普及啓発活動を行ってきました。



↑参加者と交流しながらいろいろとなお話をしました。

新里勝則さんは11月8日に、「介護の日フェア」認知症カフェ・ゆんたく広場にしま〜るに参加しました。



↑全国の大使のみなさんと交流しました。

大城勝史さんは11月7日に、全国希望大使交流会議に参加しました。



今後も沖縄県の認知症理解促進のため活動していきます!